

ある夜、私は夢を見た。夢の中で 私は、神とともに海辺を歩いていた。

by NCM2 CHOIR

全4page

FOOTPRINTS

One night a man had a dream. He dreamed he was walking along the beach with the LORD. Across the sky flashed scenes from his life. For each scene, he noticed two sets of footprints in the sand: one belonged to him, and the other to the LORD.

When the last scene of his life flashed before him, he looked back at the footprints in the sand. He noticed that many times along the path of his life there was only one set of footprints. He also noticed that it happened at the very lowest and saddest times in his life.

This really bothered him, and he questioned the LORD about it. "LORD, you said that once I decided to follow you, you'd walk with me all the way. But I have noticed that during the most troublesome times in my life, there is only one set of footprints. I don't understand why when I needed you most you would leave me."

The LORD replied, "My precious, precious child, I love you and would never leave you. During your times of trial and suffering, when you see only one set of footprints, it was then that I carried you."

これはクリスマスプレゼントに娘からもらったものです。



一歳の孫娘の足型をとってお皿にしたものです。

これは？



先日

飼い猫のトイレの砂箱を洗って干しておいたところ、翌日ついてきた足跡です。庭に来るリスにしては大きすぎます。

そして、先日その犯人の姿を見ました。

夜、家に着いて車を止めようとした時、お隣の家に向かって走っていった大きな猫のような毛のふさふさした、動物がいました。

猫の3倍くらいの大きさです。ラクーン(あらいぐま)でした。足跡の大きさが一致しました。

先日引っ越してから初めてこちらの犬猫病院に我が家の猫をつれていきました。
待合室の天井を見ると、こんな楽しい足跡の模様がありました。



家の前の公園にもこのデザインを発見しました。



そしてあの有名な足跡の詩をおもいだしました。

ある夜、私は夢を見た。
夢の中で、私は神とともに海辺を歩いていた。
空には、私の人生のさまざまな場面が
フラッシュのように映し出される。
そのそれぞれの場面で、
私は2人分の足跡が砂浜についているのを見た。
ひとつは私のもの、そしてもうひとつは神のものだった。
私の人生の最後の場面が映し出されたとき、
私はそれまでの人生の足跡を振り返ってみた。
驚いたことに、何度も私の人生の中で
足跡が1人分しかない時があることに気がついた。
そして、
それは人生でもっとも暗く悲しい時期ばかりだったのだ。

私は神に尋ねた。

神様、あなたはおっしゃいました。
一度私があなたについていくと決めたなら、
あなたはずっといっしょに歩いてくださると。。。

しかし、私がおっとも辛い時期に、
砂浜には1人分の足跡しかありませんでした。
なぜ私が最もあなたを必要としているときに、
私からお離れになっていたのか理解できないのです。

神は答えた。

いとしい我が子よ。
私はお前がおっとも苦しい試練の最中にいるときにも
決してそばを離れることはなかった。
1人分の足跡しかなかった時期には、
私はお前を抱き上げて歩いていたのだ。

「足跡」By Mary Stevenson (Born 11/8/22 Died 1/6/99)

そうです。いつもイエスさまは私達が苦しい時におんぶして共にこの世の旅路を
歩いてくださるお方です。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。
あなたがたを 休ませてあげよう。マタイ11：28」の御言葉通りです。

今年も後10ヶ月とちょっと、いろいろなことがあるでしょうが、
大変な時には、イエス様がおんぶしてくださるから、大丈夫。

竹下弘美



折尾クリスチャンチャーチ

住所 〒807-0873

福岡県北九州市八幡西区藤原 2-12-6

電話&FAX 093-692-9200 (9:00~13:00)

メール oriochurch@outlook.jp